

	<p style="text-align: center;">6月環境月間特集その2：2012 愛知環境賞「銅賞」受賞</p> <p style="text-align: center;">～ トヨタ紡織(株) ～</p>
-----------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

～環境に配慮した自動車部品の開発・普及が高く評価される～

トヨタ紡織株式会社は、このほど愛知県が主催する「2012愛知環境賞」において、銅賞を受賞した。

「愛知環境賞」は、資源循環や環境負荷低減に向けた、優れた<技術・事業・活動・教育>に対する表彰制度で、愛知県として万博開催を契機に2005年より毎年1回、表彰授与を行なっている。

今回のトヨタ紡織の受賞は、「植物材料ケナフに着目し、種子・栽培技術開発から自動車部品製品化までの一貫生産体制を確立したことが、バイオマスの工業製品への活用による低炭素社会づくりの先駆的な取り組みである」と評価されたものである。

トヨタ紡織グループは、基本理念で「地球環境保護」を掲げ、中期実行計画である「2015年環境取り組みプラン(2011～2015年度)」において、環境と生産が調和した持続可能な社会を目指している。

また従来からも、低炭素社会の構築に向けた技術開発として、自動車の軽量化による燃費性能の向上、および二酸化炭素排出量削減を目指し、1990年代後半から工業製品への植物の活用を検討しはじめている。

その代表が、生長が早く、二酸化炭素の吸収能力が高いケナフである。2000年に製品化したドアトリムを皮切りに、順次採用車種・採用部位を拡大し、現在ではインドネシアで種子開発から栽培、ボード生産まですべてを事業化している。

トヨタ紡織グループでは今後も、植物由来材料の採用拡大による「車室内空間のオール植物化」を目指し、地球環境にやさしいものづくりを推進していく。



「2012 愛知環境賞 受賞式 (2012年2月15日)」
写真左から、
EPOC (環境パートナーシップクラブ) 松下篤(シュン)会長 (当時)
トヨタ紡織(株)野口満之取締役副社長